

淡路島に於けるクチキコオロギの新産地について

登 日 邦 明

淡路島産のクチキコオロギ *Duolandreus coulonianus* については、これまで山崎俊道 (1973, 本誌 No.11), 堀田 久 (1978, 本誌 No.18), 山崎博道 (1981, 本誌 No.25) などに より付属島嶼の沼島を含め合計12カ所から分布が明らかにされており、その生息環境は総じてシイの古木が残存するような、いわゆる照葉樹林であった。

昨年、自然研の大草伸治氏の協力を得て各地の調査を実施した際、これまで知られていなかった本種の生息地を新たに3カ所見い出すことができたので記録しておきたい。

今回追加される生息地は、即知の本種の生息地からすればいずれも里山的要素の強いいわゆる雑木林であるので、引き続き同様の環境を広範囲に調査することにより、多くの生息地が確認できるものと思われる。

1. 東浦町白山

東浦町河内の白山神社の周辺とその背後に位置する雑木林の一角で、昨年の8月・10月にかけて多数の鳴き声を確認し1個体を採集した。雑木林はかつてはアカマツを主体とした林であったものが、アカマツが枯死し下層にあったウバメガシやカクレミノが生長したもので、従来から知られている本種の生息環境からすると適切とはいえないような林であるが、鳴き声から推定するところでは生息密度はかなり高そうである。

Shirayama 1 ♂, 30. VIII. 1990 (K. Tobi leg.)

2. 津名町大町畑

筆者宅の裏山 (屋敷林) で、10年余り以前から本種に似た鳴き声を時おり耳にしていたのだが、ヤマモモ、ウバメガシ、カクレミノなどを主体とした規模も決して大きくない林 (500m²程度) に本種が生息しているはずがないと思い今日に至ったが、昨年の8月23日に林に面した部屋の中で鳴き声がするので探したところ本種であることが確認できた。

また、この林での生息密度はそれほど高くないが、数100m離れた位置にある同様の植生の林を調査したところ、多数の鳴き声を確認でき、2個体を採集することができた。近辺ではこれまで山崎 (1981) により、約2km離れた高倉山より生息が確認されていた。

Omachi Hata, 1 ♂, 23. VIII. 1990 (K. Tobi leg.)

1 ♂, 1. IX. 1990 (S. Ohkusa leg.)

1 ♂, 1. IX. 1990 (K. Tobi leg.)

3. 西淡町お局塚

西淡町伊加利の通称護摩山 (alt. 235 m) の中腹に“お局塚”があるが、その境内に生える
 余り太くないシイの樹皮下から、大草氏が1個体を採集した。氏の話では鳴き声は多くな
 く、生息密度は余り高くはないとのことであった。植生も決して良好とはいえず、周辺はア
 カマツが枯死した後に遷移してきた林で、樹種も比較的単調である。

(Otsubonezuka (Ikari), 1 ♂, 29. VIII. 1990 (S. Ohkusa leg.)

分布図

クチキコオロギ

Duolandrevus coulonianus SAUSSRE

分布確認図：●印

